

## エスパス ルソー



ジャン・ジャック ルソーは1712年6月28日、ジュネーブのグラン・リュ40番地で生まれました。18世紀を代表する啓蒙思想家、音楽評論家、作家である彼を記念して、290年後にあたる2002年同日、旧市街地にある彼の生家に「エスパス ルソー」が設立されました。

ジュネーブ市議会は1996年に生家を公共機関として人々に開放してほしいという欧州ルソー運営委員会の要望を聞き入れて、クリスチャン・ラビルデビネ教授を総裁にエスパスルソー設備協会を発足させました。1997年4月からメセナや有名スポンサーに働きかけて資金を集め、設備計画を優秀な舞台デザイナー達のコンペに委託するなどし、従来の博物館といったものではない全く新しい機構が出来上がりました。この「エスパス

ルソー」を訪れた観光者、巡礼者、研究生のみなさんは「ジュネーブ市民」としてその著に記したルソーの思い出を再発見されるに違いありません。

25分間のオーディオ ビジュアル ツアー

生家40番地の一階に上がると「エスパス ルソー」の受付があります。小さなフロアですが、ルソーの生涯と思考が「ジュネーブとサヴォアでの幼年期」「体制と社会批判」「識者、思想家」「自然感情を追求した小説家」「有罪宣告と栄光」「言われたこと」の非常に中味の濃い6つのコーナーに分かれています。仏語、英語、独語、伊語、日本語の5ヶ国語による視聴覚器を借りて（日本語の場合、チャンネルを5番に設定）、パネル番号と床下の道しるべに従って進むと、最新の音声と画像技術によって知らず知らずの間にルソーの世界に入り込んでいるので不思議です。

この場所はルソーの博物館でも、幼年期の思い出の場所でも、当時の生家の復元でもありません。『告白』にあるように、ルソーはジュネーブの貧しい時計職人の家に生まれ、恵まれない境遇から16歳でヨーロッパを放浪し、様々なことを試みましたが全てに失敗しましたが、多くの経験に基づいた自然科学、教育、音楽、演劇など多岐にわたる優れた論文を世に残しました。また、『社会契約論』はフランス革命の精神的支柱としてその

後の民主政治に大きな影響を与えました。一方、金持ちの女パトロンに庇護されることが多かったとか、テレーズルバスールとの間にもうけた5人の子どもを育児院の前に捨てたという話もあります。

ルソーの保証にたつ証人となるか、また相容れない反論者の立場に立つかは「エスパスルソー」を見学して彼の生きた軌跡をたどり、ひとり一人に決めていただくかありません。ジュネーブ観光で是非立ち寄っていただきたいスポットのひとつです。（裕）

開館 火一日11:00-17:30（月は閉館）大人5フラン  
Espace Rousseau, Grand-Rue 40, 1204 Geneva  
Tel. +41 (0)22 310 10 28

